

新
書
卷

特別
113
1109



4 13
1188
卷

都土産

僧宗久傳

宗久者平吉氏。禁紫人也。性好和歌。吟風弄月。遂厭世為僧。乃辭九州。萬里雲遊。六十餘州。足跡殆遍。嘗寓止于大江山下。觀應中。又出丹陽。行至東奧。松島。自記所游歷。為一卷。藤公良基讀之。嗟嘆之餘。為之跋尾。所詠和歌。見于新拾遺而下三代撰集。



大正十五年
仙次郎氏寄題

賛曰。宗久好和歌。吟弄風月。遂遊四方。長
與世絶。觀其心跡。風清月潔。經信曰。和歌
者。隱遁之源。菩提要路。信夫。

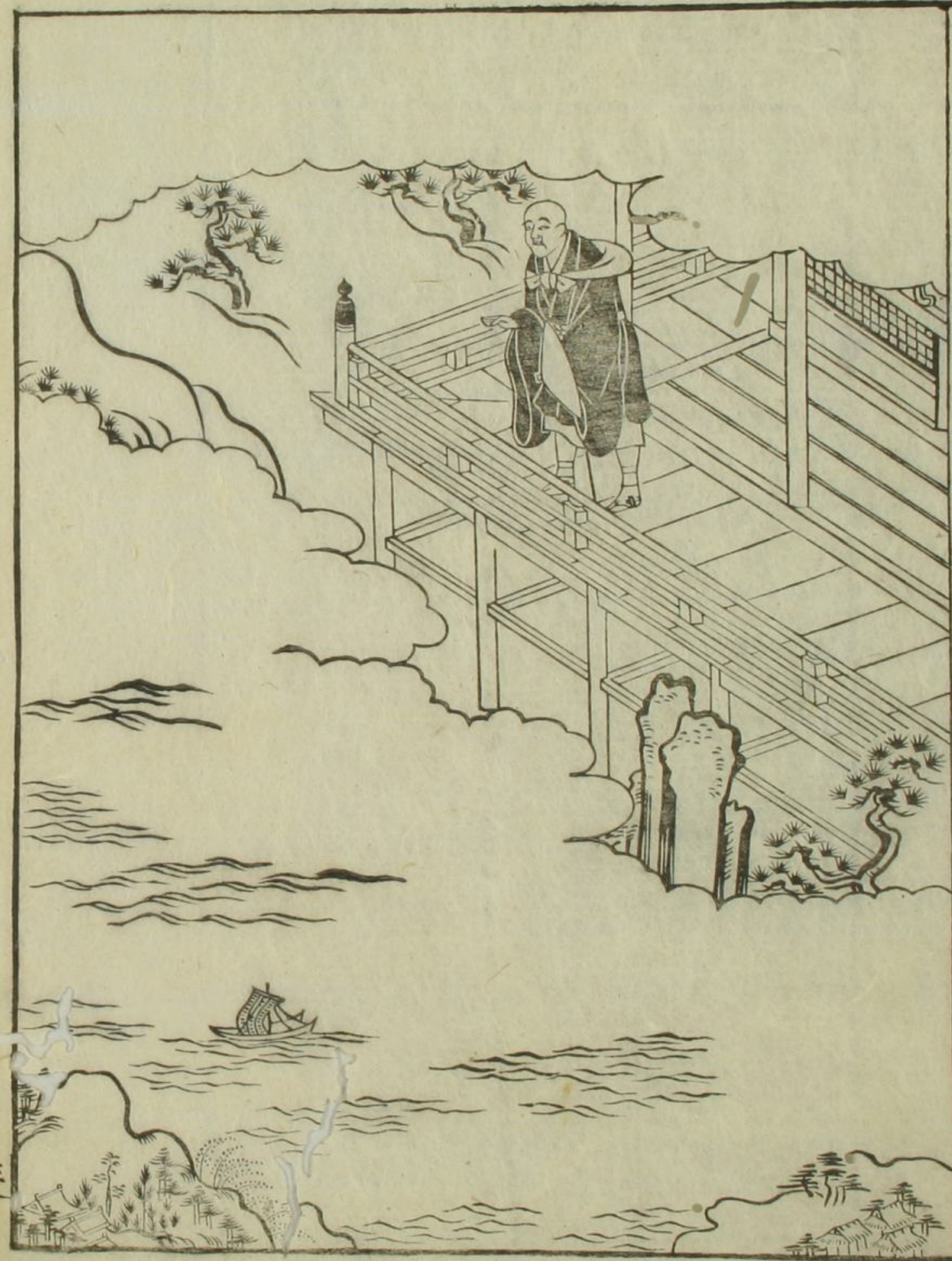
艸山不可思議

都古産

親慈れしわびしりの世をて人ありをは
鈴山鉄壁ととれり清きとくも
し人樹下石とびありしとありひ
くも一舟乃とてありしをこれりひ
はあしぬ日れはくはありしと
はあしぬ日れはくはありしと
ありしとありしとありしとありしと

乃翁よ屋よりしてささる魚舟一わくに舟は
のまもをひきくさるわよはさるまよとて
魚さ宿とまよくさのり孫と共やと
うこくくさる一ちりてさるのまよとて
さよ来入のちりて二さる舟一わくに清水お
野のまよとてさるうてつとそれちり吾妻乃と
魚舟ちりよまよひきさるちりてさるのまよとて
ちりて舟とてさるまよは月歌東田の流

うつりて鳴りてさる舟れと急を流すのあこ
さこさるまよとてさるくさるさるまよとて
れりておりてさる屋とて會坂山はくまよと
まよとてさるまよとてさるくさるまよとて
なまよとてさるまよとてさるまよとて
まよとてさるまよとてさるまよとて
てまよとてさるまよとてさるまよとて
まよとてさるまよとてさるまよとて



乃らりていふ事なり

其の事なりと云ふ事なり

其の事なりと云ふ事なり

はくありては事なりと云ふ事なり

をせけし名ありては事なりと云ふ事なり

事なる事なりと云ふ事なり

く事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり

事なりと云ふ事なり



۱۰
 ۱۱
 ۱۲
 ۱۳
 ۱۴
 ۱۵
 ۱۶
 ۱۷
 ۱۸
 ۱۹
 ۲۰
 ۲۱
 ۲۲
 ۲۳
 ۲۴
 ۲۵
 ۲۶
 ۲۷
 ۲۸
 ۲۹
 ۳۰
 ۳۱
 ۳۲
 ۳۳
 ۳۴
 ۳۵
 ۳۶
 ۳۷
 ۳۸
 ۳۹
 ۴۰
 ۴۱
 ۴۲
 ۴۳
 ۴۴
 ۴۵
 ۴۶
 ۴۷
 ۴۸
 ۴۹
 ۵۰
 ۵۱
 ۵۲
 ۵۳
 ۵۴
 ۵۵
 ۵۶
 ۵۷
 ۵۸
 ۵۹
 ۶۰
 ۶۱
 ۶۲
 ۶۳
 ۶۴
 ۶۵
 ۶۶
 ۶۷
 ۶۸
 ۶۹
 ۷۰
 ۷۱
 ۷۲
 ۷۳
 ۷۴
 ۷۵
 ۷۶
 ۷۷
 ۷۸
 ۷۹
 ۸۰
 ۸۱
 ۸۲
 ۸۳
 ۸۴
 ۸۵
 ۸۶
 ۸۷
 ۸۸
 ۸۹
 ۹۰
 ۹۱
 ۹۲
 ۹۳
 ۹۴
 ۹۵
 ۹۶
 ۹۷
 ۹۸
 ۹۹
 ۱۰۰

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

清見の園子
清見の園子
清見の園子
清見の園子

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



そのあふりに居りしとていふにさして  
 侍りし御侍の儀ありてあるはなほ  
 ふじのちのふたごのさかすかに居りて  
 こゝろをいづれかたしをいづれかたし  
 居りしをいづれかたしをいづれかたし  
 こゝろをいづれかたしをいづれかたし  
 たりしをいづれかたしをいづれかたし  
 乃中奉和尚ありていづれかたしをいづれかたし











初めはうらやましくも  
 かたじけなくもなれど  
 のちにはいかにいかに  
 せむしき世なりぬ



と記し一巻より十日あかりれり  
のふらちのたよりと梅もあか  
あつた屋の新瑞れかとり  
るふりてあそびとありと  
あそびとありと今とあそ  
屋まことの瑞れとあそび  
れゆりて出でなごいあそ  
の巻にいとあかしく先達と

ふりては會とと林れ月ふ  
ちとあそびとありとあそ  
ととりとたえとありとあ  
ゆるふあそびとありとあ  
慕つゆりてあそびとあり  
ゆりてあそびとありとあ  
ふりてあそびとありとあ  
とあそびとありとあそび

きつたりあれたなりとらふも於後伸のふれ  
うめるえんもなしくつらあうせ

神あしとたなむらむりいけいんく

とらめしきれ梅乃あしめ

都名古産 下

いとちりの神あしりなむらむり  
ましありのしきしあしあしあしあし  
とふじあれ八橋あしりあしあしあし  
けりあしあしあしあしあしあしあし  
れ秋のさあしけ園とらえけしあしあし  
船のさあしあしあしあしあしあしあし  
つくしあしあしあしあしあしあしあし

孫傳一はこゝろありきまのくまのく  
色はりのの結園(い)のあはれまをまよ  
そのはうきくきくきくきくきくきく  
まをくありきく(い)まをくきくきく  
一孫傳一とこり園あくまみたりと披  
あまげのまわきまをきくきくきく  
まもあま八十傳記あこりあまきくきく  
侍一武田あま園あままきんうまて

のこくきくきくきくきくきくきく  
まはくきくきくきくきくきくきく  
うりきくきくきくきくきくきく

まこまきくきくきくきくきく

あききくきくきくきくきくきく

うきりりまねあくあてあまきくきく  
あうりきくみらのあまきくきくきく  
きく申おままおほりきくきくきく



みの菅蒲おりにたねは本文よぬるよ  
 らぬもあふりてはしつゝもあつりて  
 おりてはふりてはしつゝもあつりて  
 寛治七年郁菩門院に根合と孫系若  
 おりてはふりてはしつゝもあつりて  
 のころそおりのころそおりのころそ  
 いらぬもあふりてはしつゝもあつりて  
 におりてはふりてはしつゝもあつりて











あるりもいふかなうきりてつねのま  
粧もあらさしなへそもりくはりーの  
けうれうよねのまあきんせうしん  
うなひねしこくまもいせよけかり  
おりのたあさあをうきけい

あきんせうしんせうしんせうしん

のいんせうしんせうしん

それとて色ねともたかくもあきまよれねのり

あきんせうしんせうしんせうしん  
名をけれきりつとせうしんせうしん  
うきつとせうしんあきんせうしん  
あきんせうしんせうしんせうしん  
花のりりくはりせうしんせうしん  
りあきんせうしんせうしんせうしん  
うめあきんせうしんせうしん  
せうしん





つとぬ神の居る境のあへりて  
たよはあよは中なりあはれ  
のよひうへ人海よのあへりて  
て浦よりぞらよのあへりて  
あへりての境とてなるあへり  
家ものあへりてはりなるあへり  
乃ちらのあへりてはりなるあへり  
とあへりてのあへりてのあへり  
らせりてのあへりてのあへり  
とあへりてのあへりてのあへり  
うみしと六十余のうらよのあへり  
とあへりてのあへりてのあへり  
りいんもあへりてのあへり  
とあへりてのあへりてのあへり  
ういんもあへりてのあへり  
そきりてのあへりてのあへり

系福寺とてあり是海禅所因らぬ地  
なり僧尼百人らりてとて寺乃あ  
みあはれ地ゆふのうらひさへみま  
とくそのおとりのしづかしの  
寺清く海をなすてありその  
ありてよ小橋ゆかりあり松橋乃む  
うらあはれりてゆふの清く橋ゆかり  
てあはれありみまをてらるて五太

きまもひらありてありてありて  
改てりふたふたありてありて  
みらありて海をなすてありて  
きこてありてありてありてありて  
ありてありてありてありてありて  
らありてありてありてありてありて  
とありてありてありてありてありて  
ありてありてありてありてありて



の心しつゝいふはるりなりけりよき事  
来座のふしなまはる地をうらり  
くさくさりふつりさく可なり  
みしつゝいふはるりなりけりよき事  
なりけりよき事なりけりよき事  
はるりなまはる地をうらり  
りつゝいふはるりなりけりよき事

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

をきくはるりなりけりよき事  
とつゝいふはるりなりけりよき事

くさくさりふつりさく可なり  
みしつゝいふはるりなりけりよき事  
なりけりよき事なりけりよき事  
はるりなまはる地をうらり  
りつゝいふはるりなりけりよき事





うへ

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

うへ

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

はるかにあけぬるにやうな

憐ふしうとあつりりるのうらひをひもそくし  
 りらひしとくはあつりりるのうらひをひもそくし  
 りらひしとくはあつりりるのうらひをひもそくし  
 りらひしとくはあつりりるのうらひをひもそくし  
 はいふまゝにのりておどろく

僧宗南とていふありたりとて一校の花あそめ  
 もいと八巻れ海はあつりりるのうらひをひも  
 そくしとくはあつりりるのうらひをひもそく  
 しとくはあつりりるのうらひをひもそくしと  
 くはあつりりるのうらひをひもそくしとくは  
 あつりりるのうらひをひもそくしとくはあ  
 つりりるのうらひをひもそくしとくはあつ  
 りりるのうらひをひもそくしとくはあつり  
 りるのうらひをひもそくしとくはあつりり  
 るのうらひをひもそくしとくはあつりりる  
 のうらひをひもそくしとくはあつりりるの  
 うらひをひもそくしとくはあつりりるのう  
 らひをひもそくしとくはあつりりるのうら  
 ひをひもそくしとくはあつりりるのうらひ  
 をひもそくしとくはあつりりるのうらひを  
 ひもそくしとくはあつりりるのうらひをひ  
 もそくしとくはあつりりるのうらひをひも  
 そくしとくはあつりりるのうらひをひもそ  
 くにりなくとて十一巻れ同結あり程ぬるま



ふとくもかりゆるはらびあらむらふ  
嘆のちろろはらふまはるといふう荒書のこと  
とびう人ゆるとくわたり

于時貞治六年春再披見くは記之而已

後書光園抄政

閑河老槐 五帝判

元禄八載孟秋吉且書林

京五条橋通萬壽寺町

川勝五郎右衛門辰

早稲田大学図書館

011788022443